
ぼくと新たなデンセツ

水無月ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼくと新たなデンセツ

【Nコード】

N3048B

【作者名】

水無月ゆう

【あらすじ】

突然前通っていた学校から前母が住んでいたという町に転校し一人暮らしすることを決心する弘樹。あくまでも日常を愛し普通を過ごすことをぞ望んだ弘樹だが転校した学園が許してくれなかった！理不尽な生徒会長に怪しい同好会やらこころ辺では強力な勢力を持つ生徒まで現れ日常をことごとく崩壊させられる。

序章（前書き）

はじめまして。とりあえずはプロローグです。

序章

人生は誰にも予測できるものじゃない。

人には誰にも無限の可能性がありいくつもの道がある。

それをどう歩みどんな人生を歩むことになるうとも誰にも分かるはずもない。

なぜかここ上崎市はいくつもの可能性を持った人間がいていくつもの偉業を残していった。

人生は決まっているものではなく自分が決めるものである。

そうして自分の人生を180度変わった人もたくさんおり、目を疑うような人物になったりすることがある。

そして新たな偉業は一人の少年から再び作り変えられる。

だが少年はその時は紛れもなく普通の少年だった。

こうしてめぐり合ったものもなんかの縁かもしれない。

世の中には必然と偶然がある。

この少年の場合偶然だろう。

そうあまりにも理不尽な偶然であった。

よりによってである。

序章（後書き）

これからもお付き合い合ってください。

プロローグ(前書き)

続きです。

プロローグ

五月。

桜も散り風は涼しくなり始めた季節だった。

みなしまひるぎ

峰島弘樹はこの春地元で友人と同じ高校へと進学したがある日突然母が亡くなったのがきっかけだった。

母は弘樹の上にいる何でもこなす優秀な兄が二人いて父から落胆の色を見せ二人の兄に鼻^{ひいき}潰し弘樹には目をくれなかった。
いわゆる

所謂出来損ないだった。

それに係わらず母は「構うな」と強く非難する父に退くことなく母は上の兄と平等あるいはそれ以上に弘樹に接してくれた。

我が子として精一杯愛してくれた。

そんな日尊敬し敬う母が突然重い病に罹^かった。

普段表情を表に出すことがなかった弘樹はさすがにこの出来事には動揺を隠せなかった。

信じたくなかった。

信じられなかった。

あんなに優しく父にも引かない母が何故。

弘樹はただそれだけしか考えられなかった。

父と兄は一時心配をしてくれたが時間が経つにつれて諦めの色と煩^{わずら}わしさを感じるようになっていった。

力になれるのは自分だけだった。

母は元々身体が弱く病気になるやすい体質だった。

それ以来弘樹は母の側にいてずっと看護していた。

そんな時が数年続き良くなる傾向を見せなくだんだんやつれていく母を見るのがつらかった。

そうして母は息をひきとった。

弘樹は悲しかった。

泣きたかった。

母からはいつぱいの恩を貰っているのに母には何一つ返すこと出来なかった。

それが悔しかった。

ただ母から手紙を貰っていた。

もし自分この世から去ったら開いてほしいと母から言われていた。手紙中身を読み弘樹はある決心をする。

こうして弘樹は家を出た。

プロローグ（後書き）

読んでくれたらありがとう。

一話（前書き）

こんにちは、大分遅れました。

一話

「ふうやつと着いた……」

峰島弘樹は手にもった大荷物を持ち、駅のホームに立つ。

とりあえず弘樹は自分の契約したアパートへと向かう。

家賃は一万五千元。

正直、胡散臭さが拭いきれなかったけどとつくに諦めた。

学生と身分の上この時期に急に来たものだから当然置いてくれる住居は多くない。

そんなことを考えながら目的地「千雑荘」へとたどり着き事前に大家さんから預かっている鍵をズボンのポケットから出し2階建ての作りをしている古風な住宅の敷地へと踏み入れる。

ふと弘樹は鍵のホルダーに気づく。

13号室。

……そんな部屋あったっけ？

しかも不吉な数字だ。

うわあこの先大丈夫だろうか。

とりあえず気にしないことにして自分の部屋に向かい鍵を開ける。

ドアはギギツと嫌な音を立て開く。

部屋は少し古びていて見取り図は1DKだった。

よくアパートにあるような部屋だったが、異常に広かった。

……これで一万五千元？

なんか不吉な予感がしてきた。

契約する際大家（86）さんと一回なんかあるんじゃないかと聞いたけど大家さんは耳が遠いらしくまともに取り合ってくれなかった。よくよく考えると住居について何も聞いていない自分に情けなくなつた。

ひとまず曰く付き（疑惑）の住居は住むことは決定したので今更何もいえまい。

とりあえず明日からここ上埼玉市の近くに位置する学園があり明日からその学園に転入する。

前まで通っていた学校はわすが一ヶ月足らずだったが少し未練とかあったりしたけど忘れることにした。

母さんが亡くなってから色々準備をしていたので休む暇もなかったので今日は早く休めることにした。

全ては明日に向けて。

一話（後書き）

読んでくれてありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3048b/>

ぼくと新たなデンセツ

2010年10月28日08時50分発行